

再生医療実現拠点ネットワークプログラム
研究開発課題評価(令和2年度実施)
評価報告書

令和3年3月

再生医療実現拠点ネットワークプログラム

研究開発課題評価委員会

－ 目次 －

1. 事業の概要

2. 評価の概要

3. 各研究開発課題の評価結果

4. 評価委員一覧

1. 事業の概要

「再生医療実現拠点ネットワークプログラム」では、iPS 細胞等を使った再生医療について、オールジャパン体制で研究開発を推進し、日本発の iPS 細胞技術を世界に先駆けて臨床応用することを目的としている。また、疾患発症機構の解明、創薬研究等を実施している。再生医療の実現には、生命倫理や個人情報の保護等について社会のコンセンサスを得るとともに、様々な規制をクリアする必要があるが、本事業では全体として、それらの倫理関係や規制関係に対するサポート体制を構築している。

「再生医療実現拠点ネットワークプログラム」のうち、今回評価対象となったサブプログラム「疾患・組織別実用化研究拠点(拠点 A、拠点 B、拠点 C)」の概要は以下のとおり。

「iPS 細胞研究中核拠点」で作製される再生医療用 iPS 細胞等を用いて、疾患・組織別に再生医療等の実現を目指し、分化細胞の安全性、品質評価システムの構築及び効果的・効率的に再生医療等を実施するための技術開発研究を実施します。拠点Aでは、臨床応用に向けた基本的技術開発が完了している分野で、いち早い臨床応用を目指します。拠点Bでは、臨床応用に向けた技術的課題が多く存在する分野で、問題点を克服しながら臨床応用を目指します。拠点 C では、次世代の再生医療等を担う革新的な技術等による再生医療等の実現を目指します。

2. 評価の概要

国立研究開発法人日本医療研究開発機構に「再生医療実現拠点ネットワークプログラム 研究開発課題評価委員会」を設置し、「疾患・組織別実用化研究拠点(拠点 A、拠点 B、拠点 C)」の研究開発課題のうち、平成 30 年度に実施した中間評価等において令和 2 年度に評価が必要とされた 2 課題について中間評価を书面及びヒアリングにより実施した。

本評価報告書は、これらの各研究開発課題の評価結果を取りまとめたものである。

なお、評価委員会においては、各研究開発課題の評価にあたり、次ページの各評価項目に基づき、総合的に評価が実施された。

①研究開発進捗状況

- ・研究開発計画に対する進捗状況はどうか

②研究開発成果

- ・成果が着実に得られているか
- ・成果は医療分野の進展に資するものであるか
- ・成果は新技術の創出に資するものであるか
- ・成果は社会的ニーズに対応するものであるか
- ・必要な知的財産の確保がなされているか

③実施体制

- ・研究開発代表者を中心とした研究開発体制が適切に組織され、機能してきたか
- ・十分な連携体制が構築されているか

④今後の見通し

- ・今後の研究開発計画は具体的で、明確な目標が設定されているか
- ・既存治療と比較して、優位性が十分あるか、臨床上の位置付けが明確か、具体的な実用化のイメージができているか
- ・事業期間内に臨床移行が見込めるか、臨床開発に向けたロードマップが描けているか
- ・独創性、新規性、国際競争力を有しているか
- ・研究を進めていく上で問題点はないか。問題点がある場合は計画の見直し、中断・中止等の措置が必要か、計画の見直しが必要な場合どのように変更または修正すべきか
- ・経費の内訳、支出計画等は妥当であるか

⑤事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目

- ・生命倫理、安全対策に対する法令等を遵守しているか
- ・若手研究者のキャリアパス支援(研究者としてのキャリアのみならず、企業就職など多様なキャリアパスを含む)が図られているか
- ・専門学術雑誌への発表並びに学会での講演及び発表など科学技術コミュニケーション活動(アウトリーチ活動)が図られているか

⑥総合評価

- ①～⑤を勘案しつつこれらと別に評点を付し、総合評価をする。

3. 各研究開発課題の評価結果

報告書 

疾患・組織別実用化研究拠点(拠点 A) [中間評価 2 課題]

「iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた脊髄損傷・脳梗塞の再生医療」 慶應義塾大学 教授 岡野栄之

「パーキンソン病、脳血管障害に対する iPS 細胞由来神経細胞移植による機能再生治療法の開発」 京都大学 教授 高橋淳

4. 評価委員一覧

別紙参照 